



山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議

【トピック】

- 第27回障害者の主張大会が開かれました。最優秀賞及び優秀賞に輝いたお二人の発表の概要をお伝えします。
- 前号で取り上げた「夢の実現」について、主張大会での発表から紹介します。

事務局：山梨県障害福祉課
〒400-8501
山梨県甲府市丸の内1-6-1
Tel 055-223-1460 Fax 055-223-1464
E-mail
shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp

第27回障害者の主張大会

12月8日(木)、県防災新館1階オープンスクエアにおいて、第27回障害者の主張大会が開かれました。発表者は9人、視覚、盲ろう、知的、肢体、精神、発達障害のある当事者の方々が、それぞれの障害を受容し、強い意志で歩み続けている体験を発表しました。今号では、最優秀賞及び優秀賞に選ばれたお二人の発表の紹介を中心に、障害当事者の生きることへの思いをお伝えします。

最優秀賞の紹介 吉田沙緒里さん

最優秀賞には、『自分との戦い』と題して、「自分のようにつらい思いをしている人たちを笑顔にできるようにがんばっていこう」と力強い決意を示した吉田沙緒里さんが選ばれました。

吉田さんは入院した際、同じく入院していた方へ、自分の境遇を踏まえて、「つらいときにはつらいと言っていんだよ」、「うまくいく可能性を信じてみたら」と励まし、相手が「涙を流しながら『ありがとう』とってくれた」ことを契機にして「誰かの役に立ちたい」と思い、「そのためには、まず自分が強くなれないといけない」、「自分がしっかりしないといけない」と考えたそうです。

吉田さんは、入院して笑顔で生活できるようになったことを振り返り、「自分自身と同じ状況の

人たちと話をしていくうちに、お互いに分かり合える友達ができ、笑顔を取り戻すことができた」と語っていました。一人では笑顔で生きていくのは難しいときでも、苦しさ、つらさを共有し励まし合うことができる仲間が存在があれば強く生きることができると実感し、退院の時を迎えることができたようです。

吉田さんの最後の一言、「自分との戦いが始まります」を聞いた時、強い決意とともに、吉田さんのこれからの笑顔あふれる生活がイメージできるような思いで、拍手をおくりました。

優秀賞の紹介 白濱顕子さん

優秀賞には、『障害を持って』と題して、「これからも向上心を忘れずに心の目でいろいろな人と出会っていけたらいい」とこれからの生活への決意を述べた白濱顕子さんが選ばれました。

白濱さんは、お子さんがいらっしゃる母親の立場から、自分の障害をしっかり受け止めて立ち向かうことの大切さを語りました。病気の進行で次第に視力が衰える自分に対してお子さんが気遣いを見せる生活の中で、「子供にとって恥ずかしくない母親になりたい」と思い、「自立した生活ができるようにしよう」と決心、「白い杖を持って歩く訓練」、「点字を覚えたりパソコンの訓練」を重ねました。

「白い杖を持ったことにより離れていった人たちもたくさんいた」そうですが、「白い杖を持つことによって助けてくれる多くの人にも出会い

引き続き交流が続いているそうです。また、見えないことでできないことはいろいろあるものの、「今まで気づかなかった人の温かさ」を感じるようになったそうです。

最後に、障害がありながらの子育てについて、周囲に理解してもらえず周りの人の助けを得られず孤立してしまう母親もいる現状を訴えました。だからこそ、「私みたいな母親がどんどんいろいろなところに向いて視覚障害者であっても何もできないわけではないことや協力してもらいたいことを伝えていきたい」と締めくくりました。白濱さんの応援団が増え続けることを期待します。

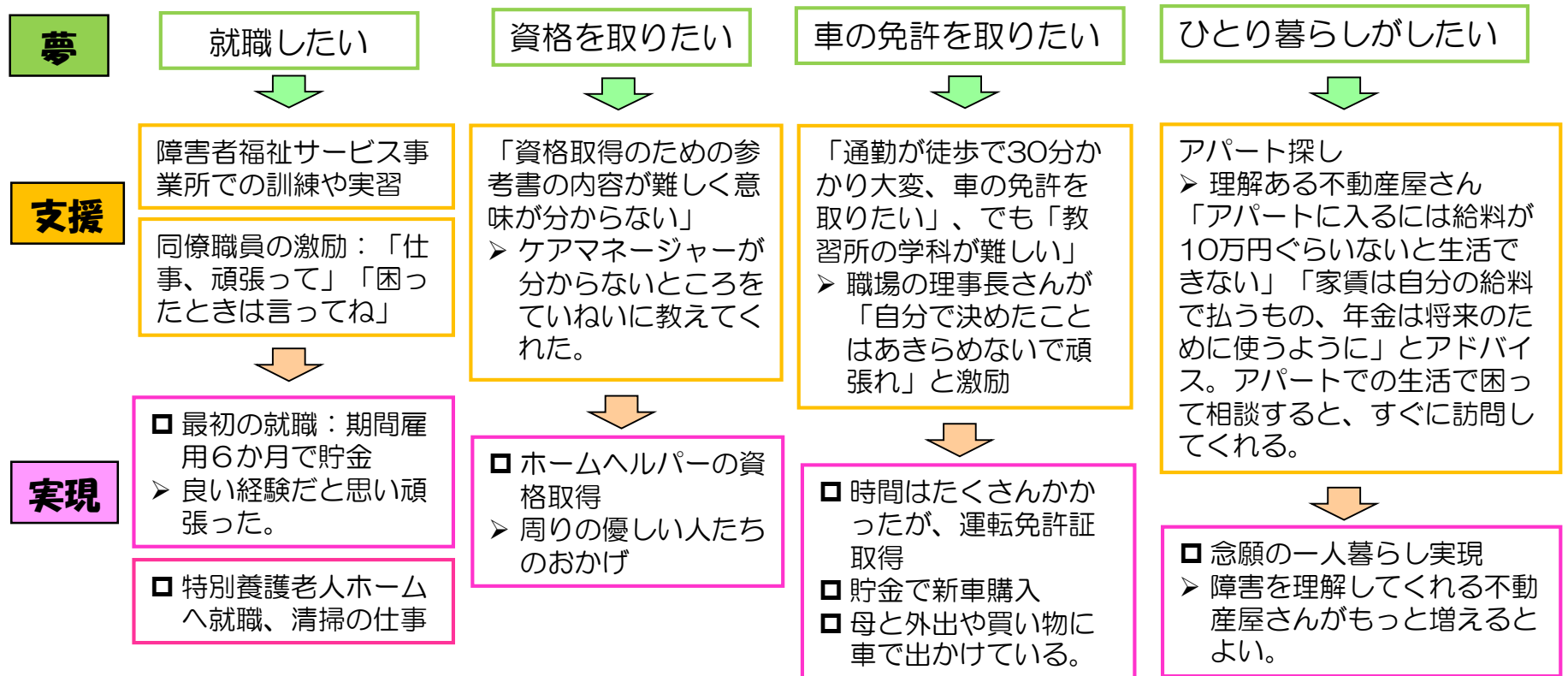
講評から 小畑文也氏(山梨大学教授)

表彰後、審査員を代表し、小畑文也氏が講評を述べました。小畑氏は、「発表者はいずれも一段高い壇上から堂々と発表しており、そのことだけでも素晴らしいこと」で、さらに「障害を取り込んで語る姿」に感動し、「明るい色の話」に勇気をもらい、「私たちに大きな力を与える内容」であったと、自分自身の障害を十分に受容して前向きに生きようとしている姿を讃えました。

夢の実現 主張大会の発表から

通信No.6では、夢の実現についてお伝えしました。今回の主張大会で、「自分の夢を持って、自分らしく生活したい」と発表した天野由希子さんの夢の実現とそれを後押しし支えた方々との係わりから、教えられることが多くあります。

天野さんは、第21回の主張大会で「就職したい」という夢を発表しました。今回は、その後について話したいと出場されました。夢を一つ一つ実現してきた過程でのご本人の努力と周囲の方の後押しの様子を紹介します。



天野さんの振り返り

自分だけの力では、夢は実現できなかった。周りの皆さんのおかげで今の自分がある。困り事や心配事があれば親身になって相談にのってくれる。職場訪問をしてくれ、励ましてくれる。
皆さんに感謝している。

これからも

「これからも自分の夢を持って、自分らしく生活したい」

次の夢は

介護の正規職員になりたい。

バルコニー付きでキッチンと寝室が分かっているアパートに引っ越したい。

天野さんの発表から感じることは、天野さんの積極性と懸命な姿です。自分から行動を起こし、実現できるよう懸命に努力する姿が浮かびます。周囲の方々は、その天野さんの姿を見て、夢が実現できるように様々な形で支援するのではないかと思います。

また、自分から周囲の人へ相談し、自分の困り感を発信する積極性も感じられます。職場で担当のリーダーが不在のときには、「新しい職員に清掃の方法を教えている」そうです。普段の天野さんの頑張りが、信頼感も生みだしているようです。

多機能トイレの情報サイト紹介

日本経済新聞12月14日付紙面に掲載された高齢者の外出に関する記事で、多機能トイレを検索できるホームページやスマートフォンアプリが紹介されています。

多機能トイレの場所を地図上に表示し、利用者の外出に対する不安感解消や気楽に外出できる環境づくりを目指しています。アプリを実際に使用してみると、県庁本館のトイレが写真付きで掲載されています。紹介数、情報量など、改善の必要があるようですが、今後の充実を期待したいところです。

「Check a Toilet (チェックアトイレット)」
NPO法人Check運営のホームページ
<http://www.checkatoilet.com/>
[Check a toilet] スマートフォン版アプリ
「Check」は、『だれもが気兼ねなく外出できる社会』を目指すNPO法人
➢ 利用者が新たに情報を寄せて掲載トイレを増やしていくシステムになっており、みんなで日本全国のトイレマップを作りあげるインターネットプロジェクトで、気づいたこと、知っていることの情報提供を募っています。